CHIIKI DE JOSEI SANKAKU
地域における女性の参画推進事業
ともまち新聞
TOMOMACHI女性参画でともにまちづくり

2026年（令和8年）10月 第６号
発行：長浜市 市民協働部 市民活躍課
お問い合わせ ☎：0749-65-8711
mail：katsuyaku@city.nagahama.lg.jp

まんが de 発見

～役割にとらわれないまちづくり～

作画：滋賀県立大学 京樂ゼミ 平岡 千聖（ひらおか ちせ）



INTERVIEW① 地域のキラキラさん見い～つけた！ 大学生が地域に飛び出しインタビュー

「ゆるく、楽しく」から始める！地域の女性参画

女性参画推進アドバイザー　廣部（ひろべ） 恭子（きょうこ）さん　　インタビュアー　滋賀県立大学　小滝（こたき） ひまり

廣部さんは、女性参画推進アドバイザー以外にも、長浜市パートナーシップ推進協議会会長、防災士など多方面で活動されています。協議会では、子どもとお父さん・おじいちゃんを対象とした「親子料理教室」や、家事や法事など身近な内容をテーマにした「コメディ劇」を企画し、男女共同参画を考えるきっかけ作りを行っておられます。

また、防災士としては、防災準備に女性の意見を取り入れることを発信されています。過去の災害から**「女性の声が届いていない」という課題**を受け、**意思決定や運営に女性が参画し、女性の意見を取り入れることの重要性**を語ってくださいました。さらに女性参画推進アドバイザーとしては、自治会の担い手不足に対して、男性中心の役員に、どうすれば女性が入りやすい環境になるかを自治体と一緒に考え、アドバイスする役割を担われています。

最後に、これから地域活動に参加したい人へ**「まず地域の行事に参加し、ゆるくつながること」**というアドバイスをいただきました。まずは自分の身を守る「自助」が大切であるとした上で、日頃のつながりをベースに「共助」へと広げていくことこそが、地域を守る力になると話してくださいました。


▲ 廣部（ひろべ） 恭子（きょうこ）さん

✦ 取材を経て（編集後記）

廣部さんのお話から、地域や防災、そしてジェンダーの視点を大切にしながら、誰もが生きやすいまちづくりに挑む熱い想いが伝わってきました。**「まず地域の行事に出てみる」という身近な一歩から、いざという時の「共助」が生まれる**のだと感じました。いくつもの異なる視点から地域に関わり、より良い未来へと導いていく廣部さんの姿こそが、これからの地域を支える大切な存在なのだと強く実感しました。



ともまち新聞第6号には、ジェンダーについて学ぶ「滋賀県立大学 京樂ゼミ」の皆さん、そして「滋賀県立虎姫高校新聞部」の皆さんに、それぞれ独自の視点で記事の作成にご協力いただきました！

◆ INTERVIEW② 地域で活躍する女性に虎姫高校新聞部の皆さんがインタ

発見！身近な地域を支える人たち　高校生が地域で活躍する方々に突撃取材！

様々な人が関わる理想的な地域づくり

浅井湯田地域づくり協議会事務局員・プランナー　野村（のむら） 祐美子（ゆみこ）さん（左）岡（おか） 美矢子（みやこ）さん（右）
インタビュアー　滋賀県立虎姫高校 新聞部の皆さん



今回取材にご協力いただいたのは、浅井湯田地域づくり協議会で地域活性化のために活躍をされている2人の女性です。同協議会では、17の自治会の区域を活動地域とされており、6つの部会で地域づくり活動を行っておられます。各種イベントや事業では、自治会や各種団体とともに活動されており、**様々な人が関わる理想的な地域づくり**を実践されています。また、部会の中には大学生で構成するものもあり、**若者も地域の一員として活動しています。**

地域づくり協議会では、主にイベントや講演などを企画するほか、地域の人がやりたいことをできるように活動し、その１番の目的は、**地域で世代を問わず人々が交流できたり、相談しあえたりする関係を築いていくこと**とお二人は教えてくださいました。

岡さんは「楽しんでやっています。楽しいことを打ち出していくと層が広がっていくと思います。」
野村さんは「参加したくなる雰囲気を作るようにして活動しています。」と、それぞれ活動への想いや工夫を教えてくださいました。これからの理想の地域について岡さんと野村さんは「どの世代の人にとっても住みやすい地域にしていきたいです」と語ってくださいました。



✦取材を経て（編集後記）

地域づくりは一部の人だけでなく、自分たちも含めて地域にいる人みんなで行っていくことで、よりよい地域にしていけるのではないかと感じられました。これからの地域の活動にも積極的に参加していきたいと思いました。

（虎姫高校新聞部2年　矢守（やもり） 蘭（らん））